

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101018		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム 舞		
所在地	札幌市中央区南25条西13丁目1-22		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藻岩山の四季折々の景色を楽しみながら生活することができ、また近所にある山鼻小学校の通学路になっていることから、日常を感じながら毎日を送って頂ける環境になっています。

1階さくらさくら、2階ふじのはなでは、年間多くの行事でご家族様も含めた交流を持ち、生活の幅を広げながら楽しく暮らしています。

町内会のボランティアや中学校の体験学習の受け入れ、小学校のバザーへの出展などで地域に根ざした、また地域へ情報を発信できるグループホームを目指しています。

職員は入居者様の尊厳を支え、生きがいのある時間を送って頂けるように日々事業室内外の研修に参加し、自己とチームの研鑽に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170101018-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年11月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの環境や機能性
藻岩山裾の閑静な住宅街にあって四季の変化を楽しみ、近隣との温かな交流がある。居室や居間は明るく、多様な装飾品の配置、機能的な介護設備が利便性の高い住環境を作っている。

2)職員の介護姿勢
職員は丁寧でやさしく、個々への心配りに意を留める介護に専念している。利用者は明るく穏やかで、伸び伸びと日々の生活を楽しんでいる。

3)運営推進会議開催状況
民生委員や地元町内会役員、入所者、包括支援センターが参加し、定期的に開催。運営状況(ホーム行事、地元の祭事、事故、苦情等)を資料とともに開示して、参加者の意見を運営に活かしている。

4)利用者家族の満足度
職員のアウトカム評価と調査機関による家族へのアンケート調査結果との整合性が高く、家族への月例の便りなどにも、家族の高い満足度を得ている。

5)地域との連携関係
近隣町内会との協議や諸行事への参加、運営推進会議での協議・報告も併せて、地域の社会資源の協力、連携に努め、効果的な関係を進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で地域密着型サービスの意義を話し合い、愛安全会の理念、さくらさくらの理念をホーム内に掲示し、日々のケアで実践できるよう努めています。	「地域と交流を深め、日々支えあい、ふれあいを大切に、伸びやかに、和やかに生きる喜びをともに」との事業所理念を、職員は如実な実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所のボランティアの受け入れや町内会の清掃、花植え活動への参加、また回覧板でお知らせがあった行事には積極的に参加して地域と交流しています。	地元町内会の共同作業、中学生の体験実習やボランティアの受け入れ、勉強会開催など”地域に根ざしたホーム”作りを実践して、地域に支えられる運営に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方々に参加して頂き認知症についての勉強会を続けています。また地域の中学校の体験学習を定期的に受け入れ、認知症についての理解を深めてもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの開催で事故の報告やケアプラン、行事の説明をし入居者様、ご家族様、町内会や他職種の方から意見を頂きケアに反映させています。	定例的に開催。利用者・家族等関係者の参加を得て、運営資料(地域・ホームの行事、事故、苦情報告等)とともに運営姿勢を明示し、参会者の意見等を運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に研修の情報を求めたり、毎月の利用状況の報告を行っています。管理者は区の連絡会議に出席し情報の交換に努めています。	月例状況報告や区管理者会議等を通じ、行政と意見交換し、運営に生かしている。また、運営推進会議に参加の包括支援センターを通じ、サービス状況の周知に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が権利擁護と身体拘束に関する研修を受けるよう年間の研修必須項目として掲げ、また外部研修へ参加した職員からカンファレンスで報告してもらい正しい認識の共有に努めています。	職員は年間の計画的な研修に参加し、指定基準等法令根拠を明確にして身体拘束、虐待、権利擁護の本旨を理解し、共有した取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、定期的開催する勉強会で職員の理解、浸透に努めています。また職員同士が注意し合える風通しの良い職場環境の整備にも努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や事業所内での研修に参加し、職員の理解を深めています。現在は必要性のある入居者様はおりませんが、いつでも対応できるような体制にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書をもとに入居、退去、退去後の支援と対応について説明し、入居者様とご家族様に安心して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や居室にはスタッフへのメッセージノートを設け、意見、要望等をお聞きしています。また年に一度無記名のご家族様アンケートを実施し、サービスの向上に努めています。	利用者の意向は月例のお便りで活動状況を周知、居室に意見・要望ノート配置、年1度の無記名アンケートを実施で把握。また、訪問時の対応や報告に努めて、サービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務カンファレンスにて事業室からの運営に関する報告をする他、年2回の人事考課で面談を行い職員の意見、要望を聞く機会を設けて反映させています。	月例カンファレンス会議は業務運営上の意見・提案の場。また、年2回の人事考課では上司との個別面談で双方向の協議をし、職員の資質向上を図り、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が日常業務に入ることで職員の努力や成果を把握し、人事考課に反映するようにしています。資格取得後は資格手当が支給され向上心を持って働けるよう支援をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を収集し、多くの職員が参加できるよう勤務調節を行っています。また新任者には新人指導マニュアルに基づき、丁寧なトレーニングを実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡協議会主催のスタッフ研修に定期的に参加している他、法人内での職員交流研修で情報交換したものをユニットに還元しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問や見学時にご本人の求めているものや不安、またご家族の思いを受け止め、安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯、ご家族の気持ちや希望をお聞きし、ホームとしてできる限り支援させて頂くこととお話しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の時や契約時にご本人とご家族のそれぞれの希望と必要な支援をしっかりと確認し、初期プランに反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する心を常に持ち、学ばせて頂くという姿勢で生活を共にしています。また自己決定を尊重し自立した生活が送られるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りで日々の暮らしの様子や気づきをお知らせしています。また行事と一緒に参加して頂く事で楽しみを共有し、絆を大切にしながら共に支援させて頂いていることをお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔住んでいた町内会や地域の方との行き来、友人との電話、手紙のお手伝い、昔から利用している美容院に通う等、お一人お一人の大切にしてきた関わりを尊重しています。	利用者の馴染みの人々との手紙や連絡の支援、美容院等の利用など、個々の生活への意向を大切にする支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で食事やティータイムの席を工夫したり、職員が関わることで入居者同士がより良い関係になるよう努めています。また全員が楽しめるようなレクリエーションや趣味が同じ方々の時間と場の提供などの支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もお見舞いや励ましのお手紙を届けたり等交流を持つようにしています。また退去後の介護相談や各機関への紹介も行っています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から頂いた情報や、日々の関わりの中で言葉や表情から思いを汲み取り、ご本人が満足した生活が送れるようケアにあたっています。また毎月のカンファレンスで職員の気づきも反映させています。	入所以来、利用者個々のアセスメントによる状況把握、家族との情報交換をもとに、個々の生活経験や思いなどの把握に努めている。また、月例会議では職員の気づき等を共有して、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族また担当マネージャーから入居前の生活歴や生活環境、サービス利用の経過などをお聞きし、ご自分らしい生活が継続できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、その方のできる事、少しのお手伝いのできる事などを把握して支援することで喜びが増えるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の視点からだけでなくご家族の意向も聴き、入居者様主体の介護計画を作成しています。また医師、看護師にもアドバイスをもらいアセスメントとモニタリングを定期的他必要に応じて行いケアに反映させています。	介護計画は担当を中心に医師・看護師・ケアマネ等他職種の意見を総合的に把握、家族の意向を含め策定している。以後、計画的執行とともに定期的な観察・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて提供したケアの記録や評価を生活記録に残しています。また毎日の申し送りやケアカンファレンスにて気づきや情報を共有し、見直しや新しい目標の展開に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望、状況に応じて通院などは柔軟に対応しています。また訪問マッサージや訪問歯科、往診なども必要に応じて利用しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとの交流や町内会主催のカラオケ大会に参加するなど、楽しみを持った生活が出来るよう支援しています。近所の小学校のバザーには毎年手作りマスコットを出展している入居者様もおります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診察の他、緊急時の往診や個々の病状に合わせた他医療機関との連携も行い、ご本人とご家族に安心して頂けるよう支援しています。また入居前からのかかりつけ医での医療も継続できるよう支援しています。	個々のかかりつけ医受診を基本に、月2回の訪問診療、緊急時診療、時に必要に応じた他医療機関の受診など家族も安心できる受診支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問があり入居者様の健康相談とアドバイスを受けています。緊急時には24時間対応可能です。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援情報を医療機関に提供しており、また安心して治療を受け早期に退院できるよう職員がお見舞いに行く都度ご家族やソーシャルワーカーと情報交換をしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴うケアについて十分に説明を行い、また医療との連携を十分に活用した最良の支援ができるよう日頃から意思疎通を図っています。	契約時に重要事項説明とともに「重度化した場合の対応指針」を合意。対応指針は医師・看護師連携、看取りの指針等を文書化して共有し、支援姿勢を明示している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が法人や札幌市、消防署主催の緊急対応研修を定期的な受け、実践に備えています。またユニットで緊急対応マニュアルを作成し、カンファレンスなどで繰り返し勉強会を行っています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員、入居者様、町内会の方が参加し消防署の協力のもと年2回の防火訓練を実施しているほか、運営推進会議で地域の方を招き災害についての勉強会を開き協力体制を築いています。緊急時に高齢者に配慮した持ち出し物品の整備も行っています。	防災設備や通報システム等の整備、避難口の確保。防災訓練対応は年2回、地元関係者・消防の協力を得て実施している。	今後も多様な震災を想定し、地域との協力関係を進め、対応の検討を続けられるよう期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の自尊心が高められ維持できるよう尊厳に配慮した言葉かけやまた羞恥心に配慮したケアを心掛けています。個人情報や申し送りは場所を選んで行っています。	職員はサービスの基本を個性の尊重におき、個々の心配りを大切に生活の一コマを聞き取り、意向に沿い、誇りや羞恥心を損ねない対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定し思いを表現できるようにお待ちする時間や言葉かけに配慮しています。また日頃より信頼関係を構築するよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちを尊重しご本人のペースに合わせたパーソンセンタードケアを心がけています。意思表示が困難な方には表情やサインを見逃さず、ご本人の望む暮らしを提供するよう努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりを尊重し、満足のいくおしゃれができるようお手伝いをしています。女性は化粧をしたりアクセサリを付け男性はお気に入りの帽子を被って外出を楽しんでいます。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり調理や盛り付け、後片づけなどそれぞれの得意な力を活かせるよう支援しています。季節を感じる食材や食器にもこだわり楽しい食事になるよう雰囲気づくりを工夫しています。	利用者は食事の準備や盛り付けなど、職員とともに自然な状態でそれぞれの得意な係りで手伝い、食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立で栄養バランスの良い食事を提供しています。また基礎疾患の配慮や嗜好を考えた飲み物やおやつを提供で栄養や水分の確保ができるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には声かけと見守り、介助の方にも尊厳に配慮した口腔ケアを行っています。また口腔ケアセミナーに参加し職員が清潔保持の大切さを認識してケアにあたっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の生活リズムや表情を把握して尊厳に配慮したトイレ誘導をしています。排泄パターンを掌握することで布パンツへの移行もできました。	職員はバイタルチェックを下に、個々の生活リズムや排泄パターンを共有。表情・動作・プライバシーに配慮した自立支援への対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し医師、看護師、薬剤師と連携を取って便秘対策を行っています。また毎日の体操への参加や食物繊維の多い食材の工夫などで、便秘による体調不良が起きないように観察しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が可能で、午前午後などの希望も取り入れています。好みの入浴剤や皮膚の状態に合わせた石鹸を使うなど気持ち良く入浴できるよう支援しています。	入浴支援はゆっくり、のびのびできるよう、好みの入浴剤などに配慮し、利用者の希望に応じた自由な時間に入浴をすすめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活リズムを尊重し安心して体を休められるよう環境づくりをしています。夜間寝付けられない方にはリラックスできるようなホットミルクを提供して職員と過ごす時間を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導の下、医師、薬剤師と連携を取り職員間でも処方薬の学習をし、安全な服薬支援を行っています。服薬時は決められた複数のスタッフとご本人の確認のうえ内服して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で喜びや楽しみを再発見したり、生活歴からその方の役割や力が発揮できるような場面を作るようにしています。また趣味の継続や気分転換で外出、外食の支援もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、散歩や畑の好きな方は収穫をしたりして日常的に外出支援をしています。家族の協力で初詣や故郷に帰省したり、町内会主催の日帰り温泉にも参加しています。	外出は日常的な買い物、外食、畑作業など個々の意向への支援に努めている。また、年間計画の行事や季節に応じ、家族や地域の協力を得た支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方には安心して買い物ができるよう職員が同行したり、ご希望があった時は代行して買ってくるなどお金を使うことの満足感を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便が送られてきた時の返信や届け物の礼状を書くお手伝い、またご家族やご友人の声が聞きたいなどの希望があった時の電話の取次ぎなど大切な関係を維持できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が業務で発する音や会話等に注意し入居者様が落ち着いて生活できるよう配慮しています。生け花を絶やさず、雛人形や、五月人形、季節に合わせた飾り物などを一緒に飾ったり、アイランドキッチンで一緒に料理を作ったりと生活感を取り入れた工夫をしています。	ホーム全体が明るく、絵画や飾り物多く飾られ、共用の居間を中心に豊かな生活設備を配置。また、日射や温・湿等に留意して、居心地良く、季節感や生活感を共にする環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のほかにソファを配置し気の合った入居者様同士がゆっくりと過ごせるよう工夫しています。また椅子を点在することで空間を分け、お一人の時間も大切にできるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具に小物、写真などを持ってきて頂き、安心して穏やかに過ごせるようご家族からの情報も参考に空間作りをしています。	利用者個々の生活の継続性を大切にしたい馴染みや家族との親しみある関係を維持し、安心と穏やかな生活を過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器を自由で安全に使用でき、介助バーや手すりを設置することで排泄、整容、入浴など今できていることが長く維持でき、介助を最小限にし気兼ねなく暮らせるような環境整備をしています。また字の大きな日めくりを掛けたり必要な目印を付けてご本人が安心して生活できるようにしています。		